



洛星新聞編集局
京都市北区小松原南町
TEL 42334

卒業記念号

萌えよ、第六期生!! 第六期生卒業



希 望

冬の雪に耐え、
寒さに耐えて
今やほだけはじめた
芽、芽、芽、みどりの芽
やがてここからどんな、
葉が花が、そして実が。
希望――

人もし蟹の殻に

とじこもるならば

人間はたれでも幸福を求めているものであります。平凡な人達がいかに幸福論に夢中になっているの、自分だけはそれに超越しているかのような態度をとる高き、優雅な哲学者や作家たちがいます。けれども学者であらう、無学者であらう、だれでも幸福を求めていることは否定できない事実であります。この事実の、く平凡な身近な証拠として、えらい学者でも、ニコヨンでも、気分が悪い場合、それがたとえ軽い頭痛であっても、みなひとしく元気がないといふ顔つもの、また世界中で人が利用する莫大な量の薬を考へる、人間だれでもいかに健康に執着しているか、いかほどそれを求めているかよくわかります。さて健康は人間の幸福のすべてではありませんけれども、その一つの重要な要素であることは確かであります。従って幸福への人の欲は全く自然の要求で、人がたとえ「僕はべつに幸福になんたいとは思わない」と言っても、それは単なる言葉の上だけのことで、その人の心の奥底の気持とあわないものであります。

このようにたれでも幸福を求めているわけですが、幸福が得られる方法とか、幸福への道といふことになりまして、人によって千差万別であります。多くの人はとくく幸福への道を、先ず「意欲」として「我がまま」「気まま」にあると考へ勝ちであります。口では「きりきり」と言わなくても、そう感じ勝ちであります。つまり、勉強も仕事も責任もなく、ただ朝から晩まで勝手に遊ぶことができれば、なんと幸福だろうという考へ……、また他人のことについてなんにも関係をもたないで、自分のことだけ考へて、自分の要求だけを充たし得るならば、最高の幸福を得られるだろうという考へ……若い人はあるは、こういうふうには考へやすいかもしれません。

若い人たちは、たとえ映画で、金持ちの若い男と女が、自動車で旅行したり、海岸で遊んだり、高級ホテルで御馳走をたべたり、ダンスを踊らしたりして、つまり贅沢な生活を享受しているのを見る時、こうした人たちはなんと幸福だろうと思ひ込み、それを大望うらやましくも思ひ込みます。そして映画館を出て現実の生活にかえった途端に、深い失望を感じ、勉強や仕事を怠る意欲を完全に失ってしまふのです。

「あの映画の人物はなんと幸せなんだらう

若しも、若しも、僕が金持ちの子で、あのように毎日日本水泳に行ったり、スキーに出かけたり、ダンスをしたりすることができれば……あのようにレジャーを楽しむことができれば……がしかし、試験の準備などに専らしなければならぬ僕のような人間には、あのような「幸福」は、とてもとて考へることさえできない。ああ、なんたる痛しき……」

映画をみたり小説に夢中になったりする若い人たちは、こういう風な考へに陥り易いのですが、映画や小説といういわゆる虚構の世界を離れて、現実の眼を向けてみよ。貧乏な気ままな生活をしている人は成程一種の満足なり、幸福なりを味わっているかも知れませんが、果してそれがほんとの幸福でしようか、それは決してほんとの人間の幸福ではないと断言できます。それは何故でしょうか。

人間はたれ動物のように眠ったり、起きたり、遊んだりするだけの生活をするものではない。人間は理性やいろいろな能力を備えたものであります。理性はたれからして、自分と周囲の世界、自然について、ますます深い知識を得ようとするものであります。つまり、肉体的な面だけでなく、時に知的、精神的な成長したいという気持をおのずからもっているものであります。ところがこのような気持の望みなりを表現するのは、努力が必要で、それにもかかわらず多くの人は努力をせず、そんな人たちは進歩もありませんし、人格の完成へ進むというほんとうの喜びも、満足もありません。たとえ贅沢な生活をして、表面大いに満ち足りた状態にあるように思われても、心の奥底ではなお何か欠けたものを感ぜ、満足していないものであります。もっと努力すべきだということばかり考へていながら、それを表行するこのできない自分自身を軽蔑するようになることもあります。場合によっては、こうした自分自身の失望を隠るために、きりがいじみた遊びの生活に夢中になったりします。皆さん、幸福は決して意欲がままの生活にはないものであります。だから人間は精神的な面や知的な面において、何か専門のものをもち、それがなくても何か研究をつけて、自分にひそんでいる偉大な能力を、神が御自身にあやかって造り給った真の人間の能力を、発達させてゆくべきであります。

もちろん遊びは結構なものです。然しそれはあくまで気分転換を目的とし、生活に變化をあたえるためのものであります。決してこれを生活の本体とすべきではありません。よく勉強、よく勉強してこそ、休けいや遊びや、レジャーを利用することが楽しいものになるのです。働いたればこそ、腹も空いて食べ物は何んでも美味しくなるように。遊びが本体になるならば、いつか興味もなくなつて退屈になってしまうものであります。

次に申し上げたいことは、幸福は決して気ままや、我がままな生活にあるのではない。他の人への奉仕の生活こそ見出されることである。皆さんは金持ちの我がままな人を知っているかも知れませんが、そういう人は、金にまかせて何んとも好きなものを手に入れたり、好きなことをしたりしますが、それでいて、どうも余りの幸福感にたたり、満足していきないうつです。なにかにつけて不平が先きに立ちます。一流ホテルに行けば、毎日のようにこんな人に出会います。自分の家の食事やサービスなどについて、文句ばかり言っています。不自由な点は一つもないのに、気持の上では食欲よりも不幸な人で、満ち足りた気持からくる落着き付きは、少しもみられません。余のにも我がまま勝手、どんなことにも満足できないからです。こういう人が、若し自分の我がままを抑え、自分以外の人のことに眼を向けて、他の人のために、例えば貧しい人のために少しでも活動するならば、その不満足な気持はかならずなくなりましよう。

現代の心理学者達は、円満な人格をつくり上げるためには、どうしても他の人に奉仕すべきであると言っています。若し人が蟹のように自分の殻にとじこもっているならば、ほんとうの意味において、人格は完成しないとも言っています。特に、卒業期を迎えた生徒の皆さんは、それぞれ夢をもつておられることでしょうし、生活の場も拡がります。どうか生徒の皆さん、「自分のだけの殻にとじこもっては」といふこの言葉、よくかみしめていたいただきたいし、神にあやかって造られた人間という自覚をいつも持つていたいただきたいと念ひを言います。

第六期生へ 校長 ヨゼフ・ナドゥ

笠 衣

★月日のたつのは早いもので、今年度ももう卒業式が間近に控えているのに押し詰まってきた。高三諸君始め、先輩諸兄の御幸運を祈りたい。

★さて、今年のこの欄では道徳について考へてみたい。近頃文化財の破壊や火災による消失は、はなはだしいものである。特にこの京都においては、世界に誇るべき、又守らなければならない文化財が多いために、これからのそのような災害のおこることを、心得ておくべきである。最も侵されやすい危険は落着きである。今日この社寺へ行つても落着きのない所は見られない。中にはどうしてあんな所に書けるのかと疑問を持つほどのものもある。又、器物破壊や放火等、数えあげれば限りがない。どうしてこのような悲しむべきことが起るのであらうか。根本的には日本人の道徳心の低下が上げられよう。池田首相もよくこれに気が付かれたのか「人づくり」を言葉にやきやきしているようだが、それが単なる流行語に終らないように期待する。

★さて、このような大きなことばかりを言つても、何もならない。それは小さいことは何か。それは我が洛星内の生徒の道徳心である。「大は小を兼ねる」と言つた「大は小なくしては成り立たない」のである。小がしっかりと出来ていてこそ大が成り立つのである。

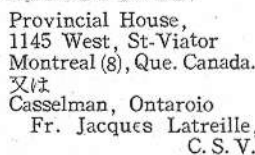
★覚えておいてほしい。昨年の文化祭記念行事の一つとして建勲神社の宮司さんをお招いて講演会が開かれたがその最後「日本は決して西歐諸国に劣るものではない。これに道徳心が備われば世界で最も立派な国となるであらう。諸君もそのために助けてもらいたい」といふ言葉のあったことを。実際にこの通りなのだが、あれ以来実際に助けて来た者が何人いるであらうか。廊下に腰が一つ落ちていても、それをゴミ箱に捨てた者は何人いるであらうか。先輩が久しぶりのこの学校を訪れて「この頃はやかましくしていてもいいのです」と先生に尋ねられたらどうだ。楽しい雰囲気と無秩序とはまるで別個のものなのである。どうかこれを機会に、今後秩序ある学校生活を送ってもらいたい。

—チャペルの建設資金の結果は仲々良好—

―戻つてこられるのは

行機で羽田から出発された。
致着さ

ラトレー神父様は、十二月十る。



Father Francois Allard
(補導部長)

青山俊樹

たものでなければならぬが、左

[illegible]

の先輩の気ままな感想と云つてく

い。

康的な学校、若人の学校とすることであろう。このような学校はと

平野嘉彦

これは、社会に反抗する、とされている我人たにでも、もつと大
きな希望を待たせよう。全ての

多々此

六二 上六 六三 六四 九五 九二 九三 九四 九一 九六

学園に思う

八年前には、どちらを向いても先生の顔や友達の顔ばかりで成人しようとするこの今までの時間、今では先生に対する感謝がその六時間の周囲の色

じられる。

楽しい（敢えて書く）授業か

「この本は、日本の主権を主張するものではない。むしろ、日本が主権を主張するべきではないことを示すものである。日本が主権を主張するべきではないことを示すものである。」

その顔つきをまじへてゐる風の出

りて申すやうに、自分は中

三十回位やっと思つ。他に大
な望遠鏡を作ったり(使い物に
ゆる所なした。又悔ゆる所あつて

らぬ事が山程ある。

に、親愛なる、アラー神父様

得したみたいになつてい

の話を信じなくてもよい。知る

を向く人ではない

「新聞の読み方(2)」は紙面都合上、どうしても載せられませんでしたので、どうぞ次号をお

本格化する
クリスマス

××××××××××××××××××××
 クリスマスも本格的に行われはしめたのは、遂に最近の事であつて、
 今回で三年目である。
 始めは補習部の指導で、クリスマス諸行事も行われて来たが、今年
 は、特に、中学生徒会を中心となつて企画した。24日の夕刻八時よりク
 リスマス行事は始まり、翌25日の明け方まで続けられた。
 ××××××××××××××××××××
 又今年は父兄も多数参加され、生徒と同じく徹夜でクリスマスを祝
 い、楽しみ合われた。
 ××××××××××××××××××××
 そして高校生も、希望参加とは云うもののその参加者は昨年よりずつ
 と多かつた様だ。
 ××××××××××××××××××××
 この様な事で、今回のクリスマスはいよいよ「三年目の正直」かミッ
 ションスクールにふさわしい本格的なものとなつてきた。

三年目の正直

催し物の第一番目は、ギリク
フの合唱である。クリスマ
ス曲特集という様な形で、ラジ
オやテレビ、街頭などで聞き覚え
のある歌の数々を披露した。しか
し結果は全くの失敗に終わった。少
し上のきみだった事で、練習不足
とがたたったのだそう。指揮者の
苦名先生が一人で頑張っておられ
気の毒だった。

二番手は中三の演劇まっかつ
かの長者であった。驚いたこと
に幕が開くや否や神楽東の役者が
七人十人、座をしている。そして「
東西、東西」という掛声で七人の
前口上がはじまる。七人が七人と
もな名前で、観客一同、肝を
抜かれた感じだった。そして人情
劇まじりの高劇がはまった。ク
リスマス気分をぐんと盛り上げた
様だった。

その次は一年生の合唱、A、
B、Cの順に歌い、最後に、A B
C合同で「赤とんぼ」を合唱し
た。一年生は始めてのクリスマス
に大変感激していた様に思われ
た。

イブの行事の最後は、中二の合
唱であった。白のワイシャツに朱
色の蝶ネクタイとそれにロウソク

合唱した。三クラス合同のためか
少しまとまりに欠けた様だが、ボ
リニームは充分だった。

そして諸行事がようやく終った

今が入り時です

美術部は貴方を 受け入れる
準備が調いました。

美術部は貴方を 待っていま
す。

—美術部—

生徒会主催スポーツ大会

高校サッカー大会

<p>高校生徒会主催の「サッカー大会」は高一・高二の各クラス参加のもとに催され、一月二十五日午後四時三十分、高一Aと高二Bの間で優勝戦が行われた。結果は、高二Bが二対一で優勝した。</p>	<p>前半、試合開始後約十分、高二Bが一点を先取、以後高一を圧倒し、二十三分後に更に一点追加、前半を終了した。</p>	<p>後半、二点を先行されて意気の揚らない高一はそのまま押し切り、それうに見えたが、後半開始後約七分に高二のバックを突破し、見事一点を返し、試合を面白くした。以後高二は闘志十分の高に苦しまれ、度々のシュートも成せず、二一のままで試合終了。</p>	<p>去る一月二十日から十八日まで、放課後を利用して中学生徒会主催で、異例の「テラフ対抗卓球大会」が開かれた。生徒会内では最初クラス対抗を予定していたが、サッカー・バスケット大会が控えているためにクラス対抗戦となったものである。これで、</p>
<p>卓球部の二チームが加わっていたがこれら四チームはいずれも準決勝までに敗退し、結局二まで残ったのは、野球部・スケート部・バレーボール部・ハンドボール部の四チームであった。そして二十八日の放課後、決勝戦三位決定戦が行われた。</p>	<p>前期高校生徒会主催のクラブ対抗ソフトボール大会（オーストラ部の優勝）と合わせて、中高ともクラブの交流を計かることができた。大会は、二十四チームも参加する盛況であり、中には、クラブ員以外の者まで引っぱり出して出場したクラブもあるらしい。このことから、これはきみん</p>	<p>ソフトボール大会（オーストラ部の優勝）と合わせて、中高ともクラブの交流を計かることができた。大会は、二十四チームも参加する盛況であり、中には、クラブ員以外の者まで引っぱり出して出場したクラブもあるらしい。このことから、これはきみん</p>	<p>卓球部の二チームが加わっていたがこれら四チームはいずれも準決勝までに敗退し、結局二まで残ったのは、野球部・スケート部・バレーボール部・ハンドボール部の四チームであった。そして二十八日の放課後、決勝戦三位決定戦が行われた。</p>
<p>ハンドボール三〇バレーボール三位決定戦</p>	<p>右の結果一位ハンドボール、二位バレーボール、三位スケート部と決定した。</p>	<p>これを機会にこれから毎年クラブ対抗の行事を続けていってほしいものである。</p>	<p>ハンドボール三〇バレーボール三位決定戦</p>

今が入り時です

美術部は貴方を 受け入れる
準備が調いました。
美術部は貴方を 待っていま
す。
—美術部—

(他)
(校)
(訪)
(問)

啓光学園の巻

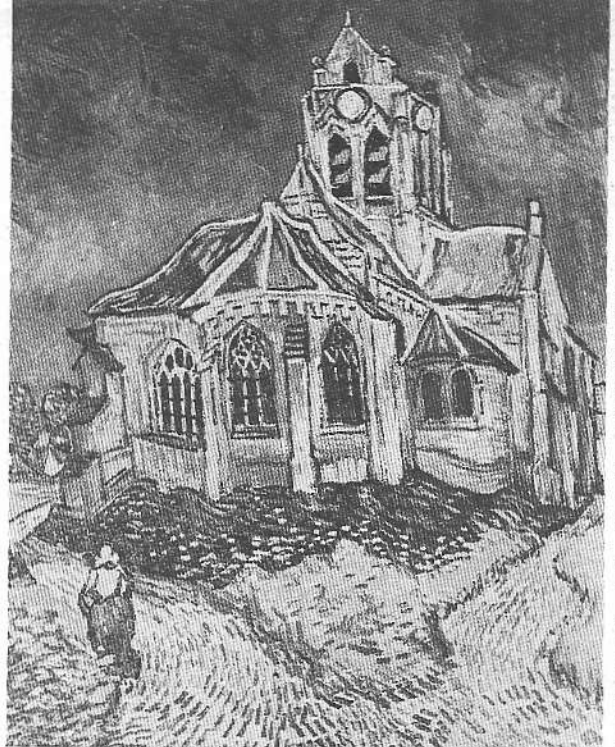
今回は本校とよく似た啓光学園を訪れてみましょう。

啓光学園といっても、知らない人が多いと思いますが、枚方市にあるカトリック系の男子の学校で、中学校と高校がある。スペインの聖トラレチアン会によって設立され、また六年の伝統しかなく、生徒数も高三・二は二クラス、高一・中三は二クラス、中二は三クラス中一は四クラス、総計七百人余りで少ないが将来は全学年四クラスになるらしい。授業時間は、時間が五十分で一日に七時間ある。思っただけでも大変である。

ここでやはり英語の教科書は **PHH ENGLISH HOUR** を使っていた。まあおきこぐくらいにして、啓光学園の門をくぐってみよう。校舎の正面の壁には、本校と同じ十字架がかかっている。運動場では、バスケットボール部の人が練習をしていた。この運動場もかなり広かった。我がが通された部屋は校長室だった。まず始めに新聞局長を紹介された。驚いたことになった。この新聞はこの間やつと創刊号がだされたのであるから、また未熟

名画紹介

ゴッホは、繪畫の目的は單なる一つの面に魂をふき入れて、感情自然の描写であつてはならない經驗の表現にしようとするものと、印象派的技法を捨て、一つ一つた。そしてセザンヌと同じよ



オヴエールの教会（油絵）

ファンゴツホ（一八九〇年作）

りでなく、彼自身の興奮を伝えるのに役立っています。ゆがめられた形及び、絵面の表面のはたきわりはさらに彼が表現しようとしている感情、連想主義を強調しています。このようにして彼は、美術の新しい概念である「表現主義」を発展させました。

この絵は、彼がバリの北方にあるに完成し、一月月後の七月二十七日に自殺せし三十七歳でこの世を去りました。そしてこの絵に描かれているオヴエール教会で葬式が行われました。

ゴッホは短い生涯に一七〇〇点以上の絵を書きましたが、彼の感受性の強い絵は余り理解されませんでした。

クラブ紹介

演劇部

演劇部

洛星創立以来の歴史を誇る我がクラブ演劇部は、その歩みの中に数多くの名優、珍優を生み出した。

現在では、校内行事を問わず人の結婚式（言はずと知れた顧問岩田先生のデス）にまで部員一同はた参し、観客皆様に笑いを、涙を提供しているのであります。昨年も顧問岩田先生の鼻の下に一致団結ガッツリズムを組んで活動。先す三月十九日の校長誕生日に、中学、高校合同で「池の蛙の物語」を上演、六月の公演にはホームルームの時間に、これまた中学高校合同で「轍」を上演、僕達中学生にとっては初めての作品らしい作品であった。その為であら味わってみたい」といふ希望

果、照明など随分努力し成功しのではないかと思います。文化祭に部員が各学年単位の劇に出演し、一つのまとまった劇はでず、文化祭終後のクリスマスマスブに、中学三年の全面的協力愛で、中三の劇という形で「まっかつの長者」を上演した、劇の味には、僕達の「二度歌舞伎の味

全くいい気持ちだった、そして演劇部史上二人目の夕鶴の森田君に続く名女形原田君が誕生した。その他この劇には多数のニューフェイスが登場し、劇中では大いにふざけ、さぞ観客の皆様もお腹の皮がよじれたことでしょう。そして今や演劇部は校内人気の的、(部員はサイン攻めに苦しみ、サバンの様に隆盛を極めている様子。今までの演劇部は少し消極的

この劇には多数のニュー・

編 集 後 記

▼例年の如くに今号は「卒業記念号」として発行致しました。その折に、先生方や、卒業される先輩達の御協力で人員不足の当局にとって、大要助かりました。

▼今号より再び「他校訪問」をはじめました。まず最初なので、本校と同じ様な学校である枚方の「啓光学園」を訪れました。今後

来る年にも訪ねていきたいと思います。そこで僕らは君達が入学し易い様に次の点を強調したいと思えます。今までの演劇部は少し消極的であった様に思ふ。今後はもっと意欲的に、具体的に言えば公演以外の活動を持つ、例えば毎土曜日に定期的に部会を開き演劇について研究するとか、又できれば色々なコンクールに出場する様努力したい。

それ故何があんでも君が演劇部に入部される様望んでいるのです。その時を僕は待っているぜ。

演劇部紹介先づは全巻の終り。
(部長 野川京治)

は京都付近のみでなく、休みを利用して遠く他校をも訪ねてみたいと企圖しております。

▼例年の願書受付の記事は、38年度高校一年生クラス増設の記事にかえさせていただきます。

▼高校生徒会主催「百人一首大会」と中学生徒会主催の「サッカー大会」とは紙面の都合上載せられませんが、お詫び致しておきます。